

一步会だより 第17号

テーマ：遍路文化とお接待



遍路体験を楽しむ「県内在住外国人」の方たち

四国通路の環境と文化を守り、次世代へ！

通路道の保全・美化、通路体験（県民・外国人）
外国人をもてなす講座、世界遺産登録先進地に学ぶ講座

NPO法人 徳島共生塾一步会

〒770-0804 徳島市中吉野町1丁目53の1

Tel/Fax 088-623-0960

E-mail: zs100@mf.pikara.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2015年06月発行

*表紙は会員内田武男さん（徳島市）にデザイン
頂いたものです。



「一步会だより」は徳島県立図書館に創刊以来の各号が保管
されておりますので、誰でも見られます。

また、7月20日頃からは一步会のホームページでも公開す
る予定であります。

<http://www.toku-ippokai.org/>

目次

○巻頭言「四国遍路は何故、世界遺産をめざすのか」

理事長 新開善二・・・・・・ 2

★特集 遍路文化とお接待

【特別寄稿】

○外国人とお接待文化について

モートン・常慈・・・・・・ 4

○お遍路文化を後世に引き継ぐために

山下 正樹・・・・・・ 6

○お遍路文化世界遺産の夢実現に期待

福山吉信・・・・・・ 8

○公認先達について Q&A

佐野喜計・・・・・・ 9

○徳島県広域行政担当室長着任インタビュー

山上達也・・・・・・ 10

○同行三人、歩き遍路にでようかな

谷口右也・・・・・・ 11

○お接待のルーツを賀川豊彦に学ぶ

川井ふみ子・・・・・・ 12

○第7番霊場から第10番霊場を巡る旅

瀬尾規子・・・・・・ 13

一歩会“遍路亭”昼席 へんろ小ばなし「總居の小言」

菅井田溪々・・・・・・ 14

○第19番霊場立江寺の奥ノ院を訪ねて

計盛幸雄・・・・・・ 16

○四国統一道しるべが決まりました

事務局・・・・・・ 17

○歩きお遍路さんを見て思うこと

福谷洋介・・・・・・ 18

○世界遺産目指して、地域市民が取り組むべきこと

新開善二・・・・・・ 19

○外国人お遍路のお接待を経験して

黒田明久・・・・・・ 20

○産学官民の連携で世界遺産目指そう！

林 大輔・・・・・・ 21

○お接待グッズの紹介

事務局・・・・・・ 22

○県内の外国人留学生の遍路ウォーキング大会

富田欽二・・・・・・ 23

○外国人のお遍路さんに英語で話かけましょう

事務局・・・・・・ 25

○歩きへんろテーマソング紹介

事務局・・・・・・ 26

★一般寄稿

○私の椿

小野信明・・・・・・ 28

○昭和コミュニティガーデンの植物

小松美智子・・・・・・ 29

○東北支援を続けています。(新聞記事)

小林徳子・・・・・・ 30

○会員の新聞投書

事務局・・・・・・ 31

○蒲生田海岸美化作業参戦記

米川比呂士・・・・・・ 32

★編集を終えて

富田欽二・・・・・・ 33

★裏表紙 遍路道の整備作業

四国遍路(*)を世界遺産にしようという取り組みがはじまって、すでに10年以上の歳月がたつ。まだ、先が見えない険しい道のりだが、四国の官民産学が一体となつての登録推進運動の更なる盛り上がりを期待し、市民団体としての活動に邁進している。当初、取り組んだ遍路道のごみ問題には、10年を要したが95%片付いた。これからは、この活動で縁ができた地域の団体や行政に加えて、経済会、霊場会、大学、専門家等と一緒になつて四国遍路の世界遺産登録目指した活動に当会としては全力を傾注し続けたい。

*「四国遍路」とは、「八十八か所霊場と遍路道、お遍路さん、お接待行為」の総称です。

四国遍路は何故世界遺産をめざすのか、四国の誰もがわかってほしいし、納得してほしいと思う。世界遺産にしようというのは、四国の宝ものを世界の宝ものとして評価してもらおうということである。世界遺産とは人類にとって大事なものの大事なことをしっかり守って後世に残すということで、四国遍路は四国とか日本にとどまらず、“人類にとって類まれにみる大事なもの”であるという認識を四国に縁のあるみなさま方には、是非持つて欲しいと思う。何故大事なのか、それは四国一円という**広範囲なエリアがステージ**になつての世界どこにもない万人通用の**人間修行と祈りのシステム**が構築されており、私たちは移り行く四国の自然の中で苦痛や不便、危険に身をさらし、1400kmに及ぶ徒歩行為の修行が1000年昔の大古から、弘法大師信仰とともに、現在まで続けられてきたという価値ある事実を目の前で眺めている。この徒歩行為のお遍路には、地域の方々が心優しい**お接待で迎える風習**が根付いて、両者で交わされる人間交流は、まさに生きた文化遺産と自信をもつていえる。世界どこにもないこれらの事実を四国の私たちは日本はおろか、世界にむけて、しっかり発信しなければならない。これらのことは人類として残すべき将来に尊いことと考えられる。このことを四国人は誰よりも理解し、納得しなければならない。世界中多くの国々にこのことを伝えて世界遺産になれば、国際的な組織、ルールのなかで、四国遍路が守られるということになる。私たちは活動仲間と一緒になつて、この類稀なる四国遍路文化の保全と伝承のために、少しでもお役立ちができないか、一步一步行動する毎日である。

【世界遺産を目指すことの意味、意義】

世界遺産を目指すには、官民が将来に一体となつての取り組み活動が求められる。この活動は地域の強力な元気づくりにつながり、“まちおこし”そのものでもある。世界遺産化は結果的に地域振興にはなつても、本来、経済振興や観光振興を目的にするものではなく、人類にとってかけがえのない文化遺産の保存、保護が重要であるとの観点から、国際的な協力および援助の体制を確立することが目的である。登録されるのが最終目的ではなく、関係行政機関や地元住民などが一体となつて、長期間にわたつて保護管理し、モニタリング(監視)にも尽力していく持続可能な協働が極めて大切である。従つて、本来は、目先の利益や不利益などを論ずるべきものではないが、ユネスコの世界遺産になることにより、

第一に、世界的な保全意識が一層高まる。

第二に、地域を誇りに思う心、郷土を愛する気持ちなど、地元、そしてその地域に住む人、働く人、学ぶ人たちの心理に及ぼす影響が大きく、意識が高まる。

第三に、世界的な関心度、知名度、認識度の向上になるのは勿論である。

これ等によつて、結果的に観光客の増加、これに伴う観光収入の増加、雇用の増加、税収の増加など地元及び周辺の市町村にもたらされる広域的な地域振興効果や経済波及効果などに繋がるのは、登録された地域の前例をみれば分かる。(関連した追加寄稿が、19ページにあります。)



特集 遍路文化とお接待

～四国遍路やお接待等について

フリーに述べて頂いてます～û

û



今回は、会員以外の次の方からも特別に寄稿いただきました

| お名前 | 所属・お仕事 | お住まい |
|----------|-------------------------------------|----------|
| モートン・常慈様 | 徳島文理大学 講師 | 徳島市 |
| 福山 吉宣様 | NPO法人 阿波勝浦井川端塾 元一步会会員 | 徳島市 |
| 山下 正樹様 | 歩き遍路の会代表 霊場会公認先達 | 奈良県大和郡山市 |
| 佐野 喜計様 | 霊場会公認先達 | 徳島市 |
| 山上 達也様 | 徳島県政策創造部総合政策課 広域行政担当室長（世界遺産担当窓口） | 徳島市 |

喜びと感謝の声が100年続く ～外国人お遍路とお接待文化について～

徳島文理大学講師 モートン常磁

〔はじめに〕

私は1999年にカナダの大学院で四国遍路の研究を始めた。古い文献を読むと、「接待」、「ほどこし」、「喜捨」という言葉がよくでてくことに気がついた。調べている内に、それらの言葉は今でも使われており、四国遍路において接待の文化は現代でも根強く残っていることがわかった。何故、そのような風習が四国で何百年もの間続いているのか不思議に思い、私は「四国におけるお接待の歴史」を修士論文のテーマにしたのである。その後、2001年から徳島にすみ、より深く四国遍路の研究を続けている。ここでは、国際的な視点からみた四国遍路における「接待」を取り上げ、四国遍路を経験した外国人の感想を紹介したいと思う。



〔昔からの接待風習〕

四国遍路の初のガイドブック「四国遍路道指南」（1687年）は接待の例が多く書かれている。例えば、ある人が「足半」（あしなか）（かかとのない草履のこと）を遍路にあげたり、「人力」（じんりき）、「薬」などを接待した。1825年に出版された「四国霊験奇応記」には接待の種類について細かく説明している。「すべて四国路は常に接待の供養がある。特に春の頃、多くの遍路がめぐる時、信心のある人は先祖の命日などに、そば、そうめん、いり豆、はったい粉、なんば、きび、さつま芋、香のもの、わらじ、ごま酢、また近所の若者が集まって遍路に髪月代（さかやき）の接待をし、めいめいが思い思いの供養、さまざまあります。」
様々な食べ物だけでなく、散髪の接待があることが分かる。また、このような記述がある。「世の中に善根功德供養は多いといえるが、接待に勝る事はない。様々な寄進や品物も多いが、評判になることだけが多い。」 現在のお接待の種類が様々だが、昔はより豊富なお接待があったようだ。お接待を頂く日本人は昔と変わりなく、感激して、感謝しているようだ。しかし、年々増えている外国人はこの風習についてどう感じているのだろうか。

〔外国人遍路・大正時代から昭和中期まで〕

1917年や1821年に四国遍路をしたアメリカ人のフレデリック・スタールはお接待についてこういった。「私は唯の一人の巡礼者として、又言語や人種においては、外国人で、仏教の信者でもないにも関わらず旅中、親切にもてなされたことにとっても感謝している。永久に忘れられない思い出となった。」
また、第一次世界大戦中の徳島県の板東収容所にいた一人のドイツ俘虜がこういった。「遍路道に沿った村や町ではどこでも「接待」といううるわしく敬虔な習慣がある。」また、1927年に四国遍路をしたドイツ人アルフレッド・ボーナーは「この美しい風習は、もちろんキリストの教える言葉と同じ精神に由来している」といった。彼らの意見を日本人の皆様はどう感じるだろうか。私も彼らと同じく、日本人の親切さ、寛大さ、おもてなし精神に感動した。何故、他の国では、これほど素晴らしい習慣、風習がないのだろうか。何故。このような精神が日本人の「芯」まで染み込んでいるのだろうか。

〔最近の外国人遍路〕

年々、四国遍路をする外国人が増加している。私は自身のホームページで四国遍路の情報を発信しており、毎日のように世界中から問い合わせがくる。今年もいくつかの外国人巡拝団や、ハイキングツアー等の団体が遍路体

験をする予定である。その他、個人でも四国遍路を巡る人は大変多くなった。またアメリカの全国放送で「四国遍路」についてのドキュメンタリー番組が放送されたことも何回かあった。このように、最近四国遍路をした外国人たちはスタールやボナーと同じような感想をもったのだろうか。私は、数十人の外国人遍路にアンケートをとり、二つのことがらを質問した。

1. 世界中の巡礼道と比較して、四国遍路やお接待文化の特徴は何ですか。
2. お接待文化を守る意義は何だと思えますか。

ここでは数人の回答を要約して述べたい。

1. 世界中の巡礼道と比較して、四国遍路やお接待文化の特徴は何ですか。

- 四国の「お接待」は素晴らしい風習だ。
- 一人々はお遍路さんに何が必要なのか推理して動く。他のところでは、尋ねたら動く。
- 「お接待文化」がこれほど根付いていることや大歓迎されたことにびっくりした。
- お接待だけでなく、親切さ、思いやり、御もてなしがあるから、巡礼がより楽しくなる。
- 四国の人にとって、お接待は面倒ではない。
- 四国の人々の献身的な精神や寛大さを痛感している。



2. お接待文化を守る意義は何だと思えますか。

- はい。私にとって「癒し」の体験だった。
- 外国人歩きお遍路として、歓迎されて、支えられていたことを感じた。
- お接待を受けることによって、無私無欲になることを教えてくれた。
- 遍路と地元の人との結びつきを維持するためには、これほど素晴らしく役に立つ風習はないし、とても意義あること。
- 「お接待」は精神的な交流である。お互いに利益を得る。
- 「お接待」は感謝の気持ちや謙虚さを教える。
- 「お接待」は四国遍路の根本的、本質的に重要な部分である。

【これから】

スタールが最初に四国を訪れた時から約100年。その間、世界各国から多くの人が四国遍路を体験し、お接待文化に触れた。私が外国人遍路に訊ねると、皆がこの文化に対し、感激し感謝の気持ちを抱いていることが分かった。私が四国遍路の世界に出会って十五年となり、今も四国における「お接待文化」に本当に感心している。実は、私もお接待活動をしている。外国人が徳島に来ると、いろいろなアドバイスをあげたり、霊山寺に連れていくこともある。初めて会う人だが、彼らの旅がより良いものになるように喜んで時間をさいている。彼らの幸せな顔を見ると、私も幸せになる。この気持ちこそ日本人の持つ精神であり、お接待が受け継がれている要因のひとつではないだろうか。今後も四国遍路やお接待文化を守り、益々世界の人々が四国遍路を訪れ、この素晴らしい文化を体験できるよう期待している。



～高知県・大月小学校の遍路授業～
遍路文化を後世に引き継ぐために！

公認先達・歩き遍路の会 会長 山下正樹（大和郡山市）

四国88ヶ所霊場 38番札所・金剛福寺(土佐清水市)と39番札所・延光寺(宿毛市)を結ぶ遍路道には、①三原村経由の遍路道51[㌾]、②太平洋沿いに西回りの大月遍路道経由73[㌾]の代表的な二つのルートがある。これまで多くの方は距離的に短い①を歩いてきた。しかし最近では②の大月遍路道ルートを歩き、海が見えて景色もよく、大月小学校の子どもたちの心のこもった道しるべ札を取り付けてある大月遍路道を歩き、空海ゆかりの番外霊場・月山神社に参拝するお遍路さんが増えてきた。

私は、ご縁があって02年9月から約2年間、高知県大月町柏島の黒潮実感センターの事務局長を務めた。その時、大月町の山中に、今は使われなくなった古い大月遍路道があることを知り、地元の方々と共に2年間かけてこの貴重な大月遍路道9[㌾]を復元した。当時の旧月灘小学校の森校長先生に相談して、授業で子供たちにお遍路さんのための道しるべ札を作り、大月遍路道に取り付けることを提案し、道しるべ札の取り付けが始まった。以来、09年に大月小学校に統合されてからも、毎年、総合的な学習の時間にお遍路さんに「道しるべ札」を作り、番外霊場・月山神社を中心とする大浦、赤泊に至る大月遍路道に設置し続けている。

11年からは、大月小学校の鎌田勇人校長先生の依頼で、毎年、全国の公認先達など数名とともに、1泊2日の日程でボランティアでのお遍路授業に訪問し、子供たちに遍路文化を教えている。大月小学校の子供たちが自分たちの住む地域にある貴重な遍路文化を学び、お遍路さんと交流することは、生きた授業そのものだ。遍路文化を後世に引き継ぐために、私は、これからもライフワークとして大月小学校のお遍路学習を続けたい。

毎年、3年生が「道しるべ札」を設置するにあたっては、お遍路授業を1時間、事前学習として実施。先達さんからは、どうしてこれだけたくさんの人たちが四国88ヶ所を回ってお遍路をしているのか。その理由や自分がお遍路をしているわけなども話した。「人はそれぞれに悲しみや苦しみを背負っています。88ヶ所を回り、お大師様・仏様をお願いすることで少しでも心を軽くする。」というものです。また、どうして白い衣装を着るのか、持ち歩く荷物の中などもリュックをあけて見せたところ、子供たちは荷物は思ったより軽装なので驚いていた。



翌日は、大月遍路道の月山神社から2班に分かれて、

9キロの遍路道に道しるべ札を取り付けた。お月山神社のところでは、赤泊の西田区長さんから、月山神社の話や、お遍路さんの話を聞いた。また、西田区長さんの家に残っている、江戸時代の遍路札も見せていただいた。当時は、バスや電車もない時代に、東京や新潟、広島などからきていることも分かり、お遍路の歴史を肌で感じることができた。子どもたちは、「お遍路さんたちがわたしたちの道しるべ札を読んで、少しでも元気を出してくれて最後まで回ってくれるとうれしいな。」と思いながら取り付けに行った。

1、大月小学校・鎌田 勇人校長先生の話

「今回のお遍路授業、「道しるべ札」の設置には、事前学習としてお遍路さんたちから実際に話が聞けたことがよかったですと思います。お遍路さんからは何のためにお遍路をしているのか。お遍路での人々の出会いや、装備など普段は聞けないお話を聞けました。また、実際に道しるべ札を付けることができたことも子どもたちにとってはいい経験になりました。

道しるべ札を付けることだけでなく、今後自分たちにできること、それはお遍路さんに出会った時に、一言声をかけることの大切さも学びました。次の日、お遍路さんに出会って、「最後まで頑張ってください。」と声をかけましたとにこにこしながら報告してくれた子どもも数人いました。今後も、3年生の生きた教材として、たくさんの方々と関わりを持ちながら、このお遍路学習を継続していきたいと思います。そして、大月の環境や文化の素晴らしさに知り、将来大月を担ってくれたり、人の役に立つような、そんな「大月っ子」を育てたいと思います。これからも3年生の生きた教材として、このお遍路学習を継続していきたいと思います。」

2、お遍路授業を受けた児童の授業日記。 3年生男子

「今日は、へんろ道にしるべ札をつけにいきました。さいしょに、西田さんの話を聞きました。少し長かったけど分かりやすく話してくれました。 歩きだしたらすぐに、へびのぬけがらがあつたので、大切にふくろにしめました。へんろ道は、のぼり坂や下り坂ばかりで大変だったけど、ぼうを見つけて一步一步すすみました。」



ぼくは、道しるべ札を見て、(ぼくの道しるべ札でも、おへんろさん元気出るろうか。)としんばいになったけど、元気になってあげたいと思いました。道しるべ札には、一こ、一こ、みんなの思いがつたわってきました。ぼくも、道しるべ札に、ぼくの思いをこめて木にかけました。

山をおりたら海でした。海の風景を見ながら食べるお弁当はとてもおいしくかじました。ぼくたちが、おへんろさんにしてあげられることは、あいさつなので、お遍路さんに会ったら元気にあいさつをしてあげたいです。最後にしゃしんをとりました。おもしろい出にのこるしゃしんになったと思いました。今日は本当にありがとうございました。」

大月小学校に届いた大月遍路道を歩いたお遍路さんからのお礼の手紙

「大月小学校のみなさん、遍路カード読ませていただきました。迷うことなく進めたし、とても元気づけられ、今にも走りだせそうぐらいに力がわいてきました。見つけられるものは、全部読みました。いい歳して男泣きしてしまいましたよ。遍路をしていると多くの人に触れ合うことができます。良かったらこれからも、遍路カードを続けてください。よく遊び、しっかり勉強し、生まれ育った町を忘れずに、大切にする大人になってください。皆さんの健康を願って歩きたいと思います。 お遍路さんより」



お遍路文化世界遺産の夢実現に期待

NPO法人阿波勝浦井戸端塾 福山吉宣
(元一步会会員)

桜前線は津軽海峡を渡り、北海道に上陸したと報道されました。暖かくなり、この時期、私たちのふる里「徳島」は四国八十八か所を巡拝される多くのお遍路さんをお迎えする季節です。

私の実家は第二十番札所・鶴林寺登山口（勝浦町）に近く、お隣はお遍路宿でもあり、小学生の頃、多くのお遍路さんを見てきました。終戦直後で、男性の一人歩きが多かったように記憶しています。



そんなある日、一人のお遍路さんが私の家を訪ねてこられ、お布施を求められました。一握りのお米を差し出すと、にっこり微笑まれて「ありがとう」と礼をいってお別れしました。実はお遍路さんが訪ねてきたときは、気持ちよく対応するよう祖母から教えられていたのです。こんなことを毎日のように経験しました。当時、大人は野良作業で家を空けることが多く、末っ子で小学生の私は留守番をしながら来客の対応や風呂焚き、それにサツマイモを蒸かししたり、まれに夕飯の準備をすることもありました。

ところが、中学生になるとお遍路さんのこうした接点の記憶がほとんどありません。学校、家庭での自分の役割が変わったこともあり、時代とともにお布施を求める習慣も変わっていったのかも分かりません。小学生の頃のお遍路さんとの出会いは、多くの春休み期間中の出来事だったように記憶しています。

1998年に35年間の務めを終え、再びふる里・徳島で生活を始めました。

70年近い前と同じ場所に立ち、今も多くの歩きお遍路さんの姿を拝見すると、遍路文化の普遍性や永続性、さらに外国の方も多く見られ交際性をも感じます。その上、道々での「おもてなし文化」があり、二十番札所等に見られる様々なボランティアによる八十八か所遍路道の整備活動も広がりを見せているとお聞きしています。

「お遍路文化を世界遺産へ」の気運が高まる中、このスケールの大きい、息の長い取り組みが継続され、いつの日か四国400万人の夢が実現することを期待しています。



遍路ガイドのプロ「先達さん」とは、Q&A

答えて頂く方は：公認先達 佐野喜計さん（徳島市）

1. 「先達さん」とはどのような方ですか教えてください。

先達は、「せんだつ」とか「せんだち」ともいわれていますが、お遍路さんが修学旅行中の生徒としますと先達は引率の先生のようなものでしょうか。

2. 「先達さん」の資格を取得するには、どうしらいいですか。資格に等級はありますか。

四国霊場会公認先達になるには、4回以上の巡拝経験が必要です。八十八か所霊場の何れかのお寺から推薦を受け、提出した書類審査を通過しますと内定通知が届き、善通寺での研修を経て先達に補任されます。先達には、その経験により、「先達」「権中先達」「中先達」「権大先達」「大先達」へと順次、昇補されていきます。

3. 「先達さん」の仕事の内容は何でしょうか。

基本的な巡拝の作法や遍路道での道案内、また札所での礼拝時に読経の先導を務めます。

4. 「先達さん」に遍路ガイドをお願いするには、どこへ尋ねるのでしょうか。

そういうシステムがあるのかどうかわかりませんが、私の場合は知人からの紹介とかネットを通じて先達を依頼されることが多いです。

5. 「先達さん」の遍路案内は一般的に有料でしょうか。

団体ツアーバスに添乗する先達さんは別として、私たちのような観光会社に属さない一般の先達はボランティアとしてしますので、基本的には無償です。

6. 「先達さん」をお願いする場合の心得を教えてください。

有志の集まりの有無はわかりませんが、徳島県内においては、先達の組織はない様です。

7. 先達さんをお願いする場合の心得を教えてください。

お参り自体に関心が薄く、いわゆるスタンプラリー的に札所を回るお遍路さんが、たまにいるようですが、これは本末転倒で悲しいことだと思います。遍路と先達とはお大師さんの前では、上下関係は存在しません。お互い、同じ道を歩む者として、敬意を払い、与えられた一期一会を大切にしたいものです。

* 佐野喜計さんに遍路案内をお願いする場合の連絡先： -088-631-8915



特別寄稿

徳島県総合政策課広域行政担当室（世界遺産登録推進の窓口部署）

山上達也室長ご着任ひとことインタビュー

前任の三好誠司課長の後任として、世界遺産登録推進担当窓口にご着任されました山上達也室長にひとことインタビューしました。（インタビュー担当：新聞善二）

1. 新任務へのご着任の感想をひとこと

「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、四国が誇るべき貴重な財産であるとともに、地域の人々が一体となって「お接待」という、すべての人を温かく受け入れる文化を育んできたものです。将来にわたり、これを保存・伝承していくことの大切さを改めて感じています。

2. 世界遺産化への事業で、徳島県として一番取り組みたいことは

まずは、「世界遺産暫定一覧表」への記載を目指し、文化庁から示された課題の解決に向け、引き続き調査・研究を行うとともに、四国遍路文化の魅力を発信し、世界遺産登録に向けた更なる気運の醸成に努めたいと考えています。

3. 世界遺産化への取り組みで市民団体に一番望まれることは

四国遍路の世界遺産登録を目指すにあたっては、幅広い気運の盛り上がりが必要です。「一步会」をはじめ市民団体の皆様や経済団体、大学、霊場会、四国四県、関係市町村及び国出先機関等で構成する世界遺産登録推進協議会において、四国が一体となり活動を進めて行きたいと考えています。



“同行三人” 歩き遍路の旅に出ようかな？

会員 谷口右也（那賀町）

四国遍路には数年前、子どもがかなり大きくなったので、妻と二人で車で回った。当然、助手席で遠慮をするような妻ではないので、私が「わがままな、あんたと回ること自体が修行である。」という、妻も負けてはいない。「あんたも、私がいないと寂しいだろう。」と、逆に感謝することを求められる始末。お互い遠慮なしの切磋琢磨(?)の修行の旅であった。その後、「やはり歩き遍路だ。」と、日帰りを繰り返し、井戸寺までたどり着いたが、父の介護もあって、そこで止まってしまった。

最近、一步会の企画で何回か遍路道を歩いた。今回は米川さんからの原稿依頼もいたにとって、「わかる」とは、全体が見えることであり、それぞれの位置づけがわかることである。例えるなら「日本はどんなところ？」と訊かれれば、やはり「衛星写真」のように高いところから俯瞰（ふかん）して、「一番大きい本州と、九州、四国、北海道の4島から成り立っており」から説明していただかないと理解できない。例えば、「日本の北の端には礼文島があり、その隣には・・・」と、北から順に、「部分部分」を話していただいたのではちっともわからない。（恐竜の爪の化石から、その名前がわかる研究者なら別だろうが。）イメージとしては、ちょうどそのような感じである。「空海」という偉人、「真言密教（ばかりではないが）」とお寺で唱えられる「般若心経」、そして多くの庶民による「お接待の文化」。

さて、これらがどのようにつながっているのか？



話はかわるが、数年前、次男が2回、遍路の旅をした。一回目は高専の時、同級生と自転車で回り、二回目は大学生の時、友人と歩いて回った。帰ってくると、さすがに成長をしていた。「何が変わったのか？」と問われてもうまく説明できないが、しっかりとはしてきた。（逆に、親の私たちが幼児化しているようにも見えるのは、情けない話である。）本を読んだり、般若心経を唱えたり、お寺へ足を運んだりするが、もやもやは晴れない。

「やはり歩くことか！」と思う日々である。

「密教」は、師匠から弟子への「口伝」とのこと。遍路道を歩く中で、同行二人の弘法大師が、何かを教えてくれるのかもしれない。

妻と二人、弘法大師と「同行三人」の修行の旅に、「早く出なければ」、と思う日々である。



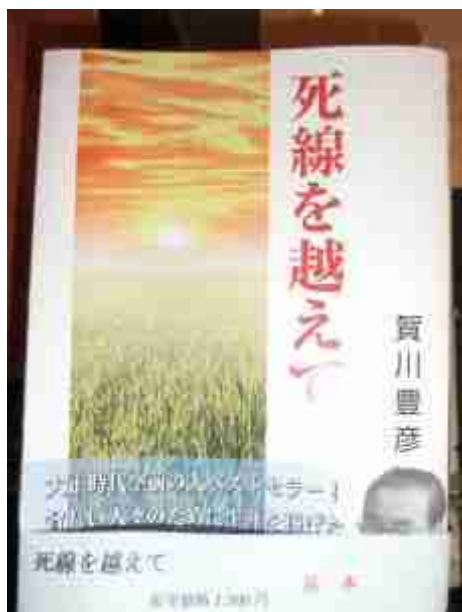
お接待のルーツを賀川豊彦に学ぶ

会員 川井ふみ子（鳴門市）
賀川豊彦記念館運営委員

私は、ノーベル文学賞候補にもノミネートされた賀川豊彦の自伝的小説「死線を越えて」の一部、二部へと読んでゆく読書会を開催しています。一部には、徳島で見た「ものもらい」や「気がふれた人」のことが書かれているところがあります。

昭和のはじめには、人々は貧しく、食べ物にも事欠くことは珍しくありませんでした。

子どもは、いつもお腹を空かし、諍の多い時代でした。そんな時代にもお遍路はあったと書かれています。また、「ものもらい」という感じで、現在のように明るい雰囲気ではなかったようです。鳴門から札所は始まりますが、昔はお寺の軒先に寝泊まりする姿を見たということをお年寄りからきいています。宗教を超えて多くの人が、「世界平和」を祈って頂けるなら、賀川豊彦さんは喜んでいることと思います。営利に走らず、本当のお接待が徐々に広がってきているのは、喜ばしいことです。「死線を越えて」には、お接待のルーツがあるのだと気がつきました。それこそ、これからの私たちみんなに求められる課題ではないでしょうか。



「死線を越えて」は400万部の大ベストセラーになったが、ドイツ語版（右の写真）も出版されている。

賀川豊彦記念館と地元書家による題名「死線をこえて」の大きな毛筆作品も掲示されている。



第七番札所～第十番札所を巡る旅

会員 瀬尾規子（吉野川市）

吉野川北岸には、一番札所霊山寺から十番札所切幡寺まで十の札所が並んでおり、十里十ヶ所と呼ばれています。大人の足で一日で回ることができる行程です。このうち、阿波市には、七番札所十楽寺、八番札所熊谷寺、九番札所法輪寺、十番札所切幡寺があります。

【七番札所十楽寺】の本尊は阿弥陀如来で弘法大師によって刻まれたとされています。この寺の御詠歌には「人間の八苦を早く離れなば、到らん方は九品十楽」と詠われています。この世の苦勞を離れて、阿弥陀の浄土に行くとなりの楽しみがあるという意味です。

【八番札所熊谷寺】には二層の堂々とした構えの山門があります。八十八札所の中で一番大きい山門で、徳島県の重要文化財に指定されています。山腹に建っており、吉野川流域の広々とした平野を眺めることができます。蜂須賀のお殿様が、月見の宴を開いたと伝えられています。40年以上前、鴨島第一中学校の徒歩遠足で、熊谷寺を訪れました。寺にクマ蜂がたくさんいたこと、遍路道に麦畑が広がっていたことが印象に残っています。中学1年生にとっては長い道のりでした。帰り道で大雨に会い、びしょ濡れになりました。



熊谷寺の山門で

80cm大の釈迦涅槃像で弘法大師が作ったと言われています。八十八札所の中では唯一の涅槃像です。10年に一度、涅槃会の時に一般公開されます。

【十番札所切幡寺】は、815年に弘法大師によって開かれたと言われています。阿讃山地の中腹にあり、本堂に着くまでに333段の急な石段を登らなければなりません。切幡というのは、弘法大師と美しい娘の伝説に由来しています。大師が四国で修行の旅をしている時、この山の麓にある小屋で、機（はた）を織っている若い美しい娘



切幡の大塔

【九番札所法輪寺】は、のどかな田園地帯にあり、境内には大きなイチョウの木があります。手をつないで、木の周りに貼り付いてみてください。その大きさを体感することができます。売店には、よもぎ餅やふかし芋が売られています。この寺の御本尊は、



大イチョウの木

に会いました。大師が山で修行をしている7日の間、娘は食べ物を用意してくれました。7日目に、大師が手甲や脚絆を繕う布を求めたところ、娘は喜んで用意し、さらに新しい衣を作るようにと織っている布を切って差し上げたという伝説に基づいています。切幡寺には、国指定重要文化財の大塔があります。徳川家康の勧めにより豊臣秀吉の増進菩薩のため1607年、豊臣秀頼が大坂・住吉大社に建立したもので、1874年に切幡寺住職が買い受け、解体移築しました。完成には10年を要しました。遍路道は、ゆっくり歩きながら、1200年の歴史を肌で感じるができる貴重な文化遺産です。友人とボチボチ巡っています。

（参考文献：「阿波遍路」発行AWA88）

へんろこばなし「隠居の小言」

会員 芸名 菅井田溪々（徳島市）



「こんにちは、ご隠居はん、おいでるで？」
「おや、寅さん、また来たな。今度は何の用かいな」
「用がないと、来たらいかんので」
「そうでない。お前さんが、汚なげなヨモギ頭、しとるけん・・・」
「ヨモギ・・・で、すまん。これからは、チューリップ」
「そら、どんな顔や？ま、いい。ちょうど今な、お遍路に出ようか、迷うとったもんで、お大師さんの身代わりがでたあ・・・そんな気いしてな、おぶけたわ」
「お大師さんに間違うてくれるなんぞ、うれしいっすね。けんど、出たのはお遍路だよ」
「またかいね。四国へ行ったら、お遍路さん、大事にしてくれるけんな」
「交番からチラシがきよまして。お遍路が、あちこちで昼飯をよばれていくんやて」
「ほう、門つけならわかるけど・・・お接待と思えば、ええやないか、ええやないか、腹立たんし・・・」
「ほれがなあ、飯の合間に身の上話をする。不幸せな・・・哀れで・・・お金を、なんぼかやらないかん、思うてしまう。裏のばあさんが、インチキくさい って」
「インチキかどうか、わからんぞ。よいか、昔、お殿さんの時代、路銀を持たぬお遍路が横行したことがある、記録にもある。乞食遍路いうてな、殿さんは、取り締められえ突きだせえ、言うたけどな、村の人は哀れんで、いたわった場合が多かった。どうじゃ、それが、お四国さんよ。ウソでもニセでもお接待・・・言うてな」
「そんな話、あてにならん。隠居の出まかせ、耳腐る」
「アホ言わんと、よう聞きなさい。調べた人がおってな、お大師さんの、奇奇妙妙な足跡をな。なんと、九州から北海道、涯から涯まで、五千件も拾いだした」
「どういうことですか？それは」
「わたくしの解釈にな、・・・つまるところ、お大師さんと思われる人が日本国中、ようけおった、ちゅうことかな。千年以上も前から、山野で修行しながら像を彫り、村々では功德を施し説法し、食べ料もろて、お堂を興す資金をいただき、その結果、慕われ信じられていた。身なりもお大師そっくり、としたら、村の衆がありがたがっても、なんおまの不思議ない。お大師さんにも遍路にも、へだてなく優しいじゃ、四国は・・・」
「ほんなら、だまされても、遍照金剛・・・言うのかいな」
「そのとおり。それが信仰。お大師さんへの愛、一切の愛・・・だました奴には、ほっといても、あとで仏罰がくだる。」
「あほくさ！そんなゼツタイ、もう、ぜったい止めた」
「おうおう、やめて結構。けっこう毛だらけ、ネコ灰だらけ、おやじの股ぐらクソだらけ、おまけに、お前は借金だらけ」「そりゃ、ひどすぎるで。そういうご隠居は、わかっとるんで？」
「ほう、きたな。お大師さんは難しい。わからんでよい。わかろうとするな、無駄じゃ。ただただ、感じればよい。あいまいも混沌も、空気も風も、ぜんぶお大師さんの世界」
「なんや、ご隠居、自分だって、わかったらんようでえ」
「ふふ・・・それでいいのだ。お四国参りしたら、お大師さんの不思議に、いやでも、いろいろ出逢う。例えば、杖で土をついたら、清らかな水が湧いて出た。千二百年の霊水、大師の天然水・・・うまいぞお」

「へえ、百パーの魔法使いでえ。あっちゃこちゃ突きまくって、水が出たら売って・・・」

「お前の考えることは卑俗でいかん。お大師さんは、法力なのか、呪力なのか、タネありかタネなしか、大ぼら吹きか、どうでもいいんじゃ」

「きょうび、そんなこと、だれも信じへんでよ」

「そこなんじゃ、寅公。科学じゃ真実じゃ、騒ぐでない。真相はわからんでええ。言うなれば宇宙原論。歴史、ちゅうもんはな、一に記録、二に発見、三に言い伝え、つまり伝説、この二つで作られる。宇宙を包含する大真理を考えるのに、大師伝説がホントかウソかは、問題でない。よいか、大事なことだけ言うておくぞ。村人のなかに伝説が生まれるには背景がある。永く伝えられるにもそれなりの理由と経緯があり、信じることで深い信仰となる。」

「なんや、ご隠居、急にえらげな・・・。ひとつ、訊ねてええかいな」「ああ、いいとも」

「せんだって、讃岐のお寺で、派手に、若い娘が、ライブ、した」

「・・・ライブ？ じゃないわな、ライブだ。それがどうした。」

「千二百年の霊水で、儲けたろうと売り出しにかかるとる、わしはそう読んどるよ。一日、のりたいけど、ツテがない。あれはどうなんで？」

「そうさな、それは・・・わたしにはようわからん」

「アナウンサーが言うには、世界の遺産相続が関係しとるようでよ、ニュースで・・・」

「なになに、そんなこと言うてるか、あそこは」

「今、人気の・・・ほれほれ、AKBよ。運動が盛り上がるでよ、地元は喜んどる。」

「そうか・・・でもあんまり感心せん。AKBよりか、わたしは星野哲郎の娘遍路じゃ。騒がしく音曲で盛り上げて遺産相続できるなら、善通寺にアニメ園造りな、土佐の竹林寺でよさこい大会やればいい。わたしのお勧めは、アカペラ88、ご詠歌祭り・・・」

「なんじゃい。ご隠居は、遅れとるんで、ふざけとるんで」

「両方じゃ、」

「文句ばっかし言わずに、盛り上げたい地元の気持ち、少しはわかってあげないよ」

「うん、そうかもしれん。だがな、わたしは・・・みんなが、お大師さんをどれほど大事に思い、永いことかけて暮らしに根付かせてきたか、世界の人にわかってもらうことが遺産相続じゃ、思うとる。それが運動の始まりでないとな。遍路に来る人の思いはさまざまだけど、遍路文化って括るのであれば、お遍路千二百年の積み重ねを、札所に、景観に、わたしらの暮らしに、生かし続ける、その覚悟を先ず語ってもらいたいわな」

「メンドイこと、言いないな」

「なあんちゃ、めんどいぞ。あとで、悔やむことないように・・・」

「うん、じゃ、わたしも、言わせてもろてええかいな・・・」

くうかい、さきにたたず！

「ほう・・・上出来！寅さんに、座布団一枚」



中入



中津峰山
東山溪県立自然公園
19番立江寺の奥ノ院

岩谷寺

本尊：十一面観音
阿波秩父観音霊場第7番札所

星の岩谷
裏見の滝
不動の滝

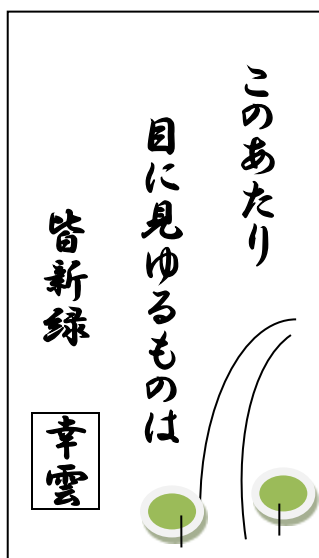
4月16日(晴天) 我ら一步会パークレンジャー 姫野・計盛は星谷河川敷運動公園より徒歩で中津峰山(773m) A区②コースをパトロールした。

新緑が美しく、薫風を感じる。「このあたり 目に見ゆるものは 皆涼し 芭蕉」を盗作した。山頂からの見晴らしも素晴らしく「暑い日は 思い出せよ 富士の山(中津峰) 子規」と言ったところ。素晴らしい人(遍路道をおもてなしの道とせんとする人達)との出会い、素晴らしい自然と歴史遺産(十一面観音群の小道)との出会いがあり、心の茎の添え竹となる言葉にも出会える。

「Oh, This is my 遍路道」である。ご報告は後日、一献交しつつ語りたい。

裏見の滝〈裏側より〉

裏見の滝〈正面より〉



お寺では絵画よりも禅語の墨蹟に出会えるのがうれしいです。

何時しか、茶席には絵画から禅語の一行物が多くなったようである。

私は茶掛け(色紙掛け)に簡単な墨絵を書いて言葉を添えるのが好きです。

「早くその芋の絵を片付けてエー!!」と言われたことがありまけど。♪♪。

私の茶掛け:お芋シリーズ

友より送られた鳴門金時

植えて収穫したサツマイモ

旅先で出会った言葉



喫茶去・Take it easy 計盛幸雄(幸雲)(卓山)

「四国共通遍路の道しるべ」ができました



四国四県でつくる世界遺産登録推進協議会は、歩き遍路の道順を示す四県共通のシールを作りました。シールは3種類の大きさがあり、次の札所が外国人にも分かるように日本語と英語で示す矢印と距離も表示されています。

徳島県では、この夏までに遍路道にある街灯の支柱等に張り付ける予定であります。

2015年(平成27年)3月21日 土曜日 **セツ** 社 会 (30)

四国共通 遍路の道しるべ

鳴門の街灯などにシール

支柱などの力所に貼り付けた。歩き遍路の環境を整えて印象を良くし、世界遺産登録への機運を高めるのが狙い。四国共通の遍路の道しるべを作ったのは初めて。

世界遺産登録 推進協が作製

四国4県などでつくる「四国八十八箇所遍路と遍路道」世界遺産登録推進協議会は、歩き遍路の道順を示す4県共通のシールを作った。県職員が20日、鳴門市でカーブミラーの



遍路道のカーブミラーの支柱に道案内のシールを貼り付ける県職員＝鳴門市大麻町検

県広域行政課は一国内外にかかわらず、全ての参拝者に遍路道を安心して安全に歩いていただきたい。道しるべを世界遺産登録に向けた環境整備の一歩としたい」としている。協議会は10年3月に設立された。遍路道の国の史跡指定に向けて協議しているほか、遍路の普遍的価値を裏付ける調査を行っている。(彫形つぐみ)

外国人に配慮 札所名英語も併記

シールは縦20×40人で分かるように目、横10×20で3種類の大きさを用意した。デザインは「1」も表示されている。白4年11月に協議会が決定。次の札所名が外国にお遍路さんの輪も入っ

国や県などは、今夏までに遍路道にある街灯の支柱などに約450カ所に貼り付ける。鳴門市は3月に車道力所に貼った。

歩きお遍路さんを見て思うこと

ユース会員 福谷洋介（北島町）

時々、歩いているお遍路さんの姿を見かける時があります。

歩いている横を通りすぎようとする時、たまにですが呼び止められて、「〇〇寺には、この道であっていますか？」と、尋ねられる時があります。尋ねられた霊場が分かる場所であれば道を教えてあげますが、お遍路さんに道を教えると何か特別なことをしたような気持ちになります。これもお接待になるのかなあと、遠ざかっていくお遍路さんの姿を見ていると、ふと思います。

様々な人たちが、それぞれの形でお遍路さんに対してお接待をしています。

お接待の文化は四国に根付いていますが、お接待を通じて四国を訪れた人を優しく迎えるのは、お遍路さんに対してするだけでいいのでしょうか？

私の母は島根県出身です。結婚を機に徳島での生活が始まりましたが、今、四国で暮らしている人の中にはそんな人もいます。仕事や結婚など、縁があって四国を訪れた人に対しても優しく迎えていきませんか？



理事長 新開善二(徳島市)

四国遍路を構成するのは、札所寺院、遍路道、お遍路、お接待の4つであるが、私達市民が関われるのは、遍路道のこと、お遍路さんのこと、お接待に関する3つであります。四国遍路の世界遺産化での最大の課題点は、顕著な普遍的価値はあるものの、これら史跡、建造物、名勝等の文化的な価値と恒久的な保護・保全措置を国レベルまで高めていないことでもあります。また、高められたとしても、その対象地区に限られて国指定の史跡、国宝や重要文化財の数が少ないことである。しかしながら、四国遍路は地域社会に根付いて、地域住民がしっかり支えてきたということは現前たる事実であり、地域住民が遠い昔から、お接待を通じてお遍路を支え、お接待は生きた文化として現在も続いているということは大いにアピールできるし、アピールしなければなりません。地域社会が一体となつての遍路文化の保全と継承が四国人の大きな役割であり、責務であります。世界遺産になれるかどうかを判定するのは、日本人だけではなく、外国人審査員が関わります。近年、外国人お遍路は増加しているし、外国への情報発信も欠かすことが出来ない取組みテーマであります。

地域市民としては次のような活動について取り組むべきと提案します。

一步会はこれらの中で、できる事業に地域団体との連携で積極的に取り組む方針です。

1 遍路道の保全整備作業、美化作業(遍路道を守る活動)

遍路道を守る組織づくり支援・遍路道の整備・保全作業、清掃作業への参加
標識案内看板の取り付け作業支援・トイレの設置、管理等 案内地図・ガイドの作成 等々。

2 お接待活動とその次世代への伝承(遍路文化の次世代への継承)

お接待活動への参加実践・子どもたちへのお遍路教育・遍路の宿泊施設の提供 等々。

3 四国人自身がお遍路に親しむ活動

歩きお遍路の実践(自分で歩いてみる)・お遍路ウォーキングイベントの実施、参加
若者が四国遍路について知るイベントの実施 等々。

4 遍路文化を外国に発信する活動

外国人へのお遍路体験のすすめ・多言語による遍路情報の発信、特にSNSによる情報発信

5 世界遺産の先進地に学ぶこと(世界遺産の知識を深める)

世界遺産講演会の実施、参加・遍路啓発イベントの実施、参加



外国人お遍路のお接待を経験して

ユース会員 黒田 明久（板野町）

2014 年は、四国八十八ヶ所霊場開創 1,200 年にあたりました。私は、今までお遍路さんのお接待をしたり、八十八ヶ所を回る機会がありませんでした。「お接待」というのも、新聞やテレビのニュースに目にしながら興味はありました。

昨年 12 月に県内外国人お遍路の方が、1 番札所から 5 番札所まで参拝ウォーキングする事業が一步会でおこなわれたので、その機会にお接待を体験することができました。中国やアメリカ、インドネシアなど、9 개국で 25 名の方が参加されました。日本の文化に興味を持って頂いてるというのは、大変嬉しいことだと思います。

とても寒い日だったのですが、外国人お遍路の方たちの笑顔を見ていたら、寒さもどこかに消えていきました。私は外国人だし、話すのは英語かな？とっていました。しかし、日本語がとても上手だったのにも、びっくりしました。

お接待を体験して、身近にある八十八ヶ所霊場のことをもっと詳しく勉強したいと思いました。また、お接待をする機会があれば参加して、たくさんの方にお遍路の魅力を伝えていけたらと思います。



2014 年 12 月 6 日（日）
六番霊場 地藏寺（板野町）にて



「世界文化遺産」目指してみんなで頑張ろう！

ユース会員 林大輔（徳島市）

今年、地方創生元年と政府は打ちだしています。また、四国八十八か所霊場開創 1200 年、大鳴門橋開通 30 周年といった節目の年でもあります。さらに、四国八十八か所霊場と遍路道は、先日、文化庁の日本遺産に登録されました。このニュースは、とても画期的なニュースとして凄くうれしく感じています。今回を機に世界遺産登録に向け四国 4 県の県民が伝統文化の継承に真剣になって、本気になって取り組まないといけないと思います。

それには、課題があります。例えば、お遍路さんにおもてなしの心を阻害される不法投棄問題や外国人排除を助長する貼り紙という問題がありました。お遍路さんや外国人巡礼客には大変失礼極まりないことです。市民も企業も行政、学校なども遍路道の文化を守り、環境保護にも努めなければなりません。大手鉄鋼製造メーカーの J F E では新人社員研修に四国遍路の体験講座を取り入れています。政治家では、菅直人元首相が平成 16 年から、お遍路を始めています。徳島文理大学では、学生の遍路道美化活動サークル「HENROZ（ヘンローズ）」というのがあり、自主的な八十八か所遍路道美化作業に取り組んでおります。このように様々な人が四国遍路に関わっておられます。

これからは、産学官民が尚一層の連携で世界遺産登録目指した事業にいろいろと取り組まねばなりません。私たち一步会ユースも、世界遺産登録に向けて遍路道美化活動に、微力ながら取り組みたいと思います。そして、少しでも早く世界遺産登録が実現して、国内外から多くの巡礼客がやってきて、おもてなしのところでお迎えし、地域の活性化や観光振興に繋がればと望んでやみません。



お接待グッズ紹介 (徳島ユネスコ協会より教えて頂きました)

| 品名・写真 | 使い方 |
|---|--|
| <p>【手づくり巾着、小物入れ】</p>  | <p>使わなくなった布切れを使って、手づくりで作ります。</p> <p>巾着にもなり、小もの入れにもなります。</p> <p>また、徳島ユネスコ協会では、観光ハガキ、アンケートを入れて使っております。</p> |
| <p>【つまようじセット】</p>  | <p>折り紙を使った手づくり品です。</p> <p>楊枝は5～6本入れます。</p> |
| <p>【メモ帳】</p>  | <p>不要な厚手の和紙を使って張り合わせた手づくりです。</p> <p>メモ用紙を10枚位入れます。</p> |
| <p>【肩たたき棒】</p>  | <p>新聞の広告ビラを固く巻いての手づくり作品です。短かめの方が荷物にならず喜ばれます。</p> |
| <p>【頭にまく布きれ】 (日本てぬぐいの代用品)</p>  | <p>日本手ぬぐいが一番ですが、予算的な制約もあり、白い布切れを購入して、手ぬぐいの大きさに切断するとか100円均一で購入するとかできます。</p> |

海外留学生達との遍路ウォーキング

会員 富田欽二 (小松島市)

昨年は空海開創1200年、徳島出身の写真家三好和義氏に言わしめれば、20世紀末から続く経済の低迷、社会不安の中、癒しや自分探しの旅として世代を超えて四国遍路は盛んに行われています。古くからの伝統と共に現代的な意味を持って生きております。現在も進行形の四国遍路です。我々一歩会は遍路のクリーンアップに取り組み、眉山の遍路道(県道鮎喰～新浜線、眉山山中3km)から始まり太龍寺～平等寺間の阿瀬比道や福井、鉦打線(新野～福井の山中2km)それに、由岐坂峠や歯辻町や入田町(神山と徳島)等人数は場所によって違いますが、120人から由岐坂は560人、阿瀬比は650人、と様々です。最近では少しクリーンになった様ですが、眉山は毎年、文理大生とのクリーンウォーキングを行いました。歯辻や入田それに福井鉦打線でのクリーンアップはまだ必要です。そんな折、四国八十八ヶ所霊場と遍路道を世界遺産に登録する運動が四国四県で盛り上がり、展開されています。そこで一歩会は海外からの留学生達を対象にして徳島にある札所に県の担当者や大学の人達と一緒に、遍路ウォーキングを行いました。最初は10月10日(日)13番大日寺、14番常楽寺、15番国分寺、16番観音寺で、この日の最後は17番井戸寺でした。12月6日は1番霊山寺、2番極楽寺、3番金泉寺、4番大日寺、5番地藏寺を、やはり、海外留学生達と巡拝しましたが、今回は第1回目をご報告いたします。

○遍路体験

案内するスタッフ、全体誘導は公認先達、山下正樹さんと女性の先達。英語の通訳と中国語の通訳、それに徳大の三隅教授(国際交流コーディネーター)、県職員二人(世界遺産担当)遍路写真家、と一歩会会員5人、留学生はモンゴル7人、中国5人、サルバドール1、ホンジュラス1、スペイン1、カナダ1、USA2の計19名。先ず、最初は、徳島駅に集合し受付開始、08:00出発し13番大日寺08:40分着、遍路用品をそれぞれ渡しました。金剛杖、白衣、菅笠、輪陀袋。全体顔合わせ、スタッフ紹介、これ以降の進行は公認先達が参拝や遍路マナー、歩きの要領など説明、そして本堂へ参拝し、読経後、大師堂へやはり参拝読経後住職(韓国から嫁に来てダンサーをしていました。主人の住職が死亡した為、長男{今17歳}が後を引き継ぐ予定なるも今は住職を勤めている)が寺のゆかりや空海の説明をして頂きました。それを英語、中国語の二ヶ国での通訳をしました。その後09:40分スタート10:30分常楽寺着、途中、マスコミの取材などがあり、2列3列で同僚や知り合いとなった仲間と話をしながらの道中となった、4つ角や道幅が狭い処は先導役や我々は交通事故の心配も必要だった。

常楽寺は10:30分到着、規模はやや小さいので順調に参拝、11:00分スタート 11:15分国分寺へ到着、お寺の礼法作法を全員行う。この寺もご住職の挨拶があり、その後お寺の隣に建っている別宅(阿波国分寺庭園)を見せて頂いた。中国、秦を想定して建てられたというが見事な庭でした。国分寺の出口ではお接待があり、一歩会会員により留学生

達へお菓子と飲み物を提供しました。その足で、昼食予定地へ向かい、少し道を間違え、反対方向へ行くチームもあったが12時過ぎ、考古学資料館へ到着。あずま屋でその時持参の昼食を取り、私はモンゴルより徳大の医学部留学している王さん21歳と一緒に食べました。彼はモンゴルでは父が医者家族であるが既に結婚をしていて単身留学生との事でした。彼が作ったようで、羊羹の様な草色の食べ物、やはり育ちが違うようであったが将来が楽しみ。盛んに、携帯で、カメラをいじっていた。彼を藍住のケーブルTVの取材に紹介、インタビューを受けていました。昼食後は観音寺へ、途中ミカンのお接待を受け、15分で到着、この寺は街の中の寺院で皆様から親しまれている小さなお寺であります。そこから本日の最終地井戸寺へ、それが遠く、黙々と歩きました。この距離が長く50分ほど、5Km以上はあると思われました。皆さん歩き遍路の厳しさを少しは分かったようでした。到着してみると、朝TVで放送があったとの事で井戸寺の正門を入ったすぐ側で徳島の城東町から来たという主婦が炊き立てのコーヒーを出されてのうれしくお接待を受けました。



大日寺の住職との記念写真



井戸寺での全員写真

井戸寺はご住職の計らいで別棟にある重要文化財がある仏像を皆さんが見学、井戸寺の歴史を学んだ。そして集合写真を撮り、バスに乗車、徳島へ16:00時頃到着。それぞれの思いを胸に解散、主なスタッフは徳島駅のレストランで反省会を開き次に備えた。

○世界遺産への思い

世界遺産登録運動は四国全体が統一的に一体となった姿勢を持たねばユネスコへの登録は不可能です。地域市民達により四国遍路は支えられている、地域に根付いた文化であることをユネスコは強く求めていると熊野古道の世界遺産化で貢献した辻林浩氏(和歌山県職員)は一步会主催の講演会で言われました。つい先日、四国遍路は「日本遺産」には、初の登録となりました。その資金も有効に活かして、四国人皆んなが望んでいる世界遺産登録に向けて一步一步前進しようではありませんか。

外国人お遍路さんに逢ったら
ひとこと英語で話してみましよう ①



モートン常磁先生の「外国人を迎えるおもてなし実践講座」のレジュメより

| | 英 語 | 日 本 訳 |
|----|---|----------------------|
| 1 | Good morning | お早うございます |
| 2 | Good afternoon | 今日は |
| 3 | Good evening | 今晚は |
| 4 | Good night | 今晚は |
| 5 | How are you? | ご機嫌いかがですか |
| 6 | Can I help you? | 何かしましょうか |
| 7 | Are you lost? | 道をお探しですか |
| 8 | Can I have your nameslips ? | 納め札を頂いてもいいですか ？ |
| 9 | Where are you from? | どちらから来られましたか |
| 10 | Where are you staying tomorrow night? | 明日はどちらにお泊りですか |
| 11 | Are you hungry? | おなかすいてませんか |
| 12 | Are you thirsty? | のどはかわいてませんか |
| 13 | Are you tired ? | おつかれでしょう |
| 14 | Are you having a good time ? | どうぞ お休みください |
| 15 | Where are you going tomorrow ? | 明日はどちらでしょうか |
| 16 | Are you camping ? | 野宿ですか |
| 17 | Are you walking ? | 歩きお遍路ですか |
| 18 | Take care | お気をつけて |
| 19 | Please come again | どうぞ、また来てください |
| 20 | Please tell others about Shikoku | 四国遍路のことを他の方にもお伝えください |
| 21 | Thank you for coming to Shikoku | よこそ 四国遍路にきていただきました |
| 22 | Will you visit all 88 temples ? | 88ヶ所全部を回られるのでしょうか |
| 23 | Are you enjoying the Shikoku pilgrimage ? | 四国遍路をお楽しみでしたか |
| 24 | Do you have a guidebook(map) ? | お遍路ガイドはお持ちですか |
| 25 | Please sit down | どうぞ一休みしてください |
| 26 | Please make yourself comfortable | どうぞご自由におやすみください |
| 27 | This is a gift | お接待です どうぞ |
| 28 | Have some tea | お茶はどうですか |
| 29 | Have some biscuits | ビスケットはいかがですか |
| 30 | Do you want some (oranges)/candy)? | みかんとかお菓子はどうですか |

「歩きへんろのテーマ」

作詞作曲 月岡祐紀子

この道は何の道 どこまで続く 空へ空へ続くやら 海へと続くやら

何かに抱かれて どこまでも歩こう はらはらはらこぼれる涙

花に花になれ

ああ空に抱かれ ああ海に抱かれ

右手に杖もって 左手は何を 両手あわせ 南無南無遍照金剛

あわせれば手のなかに 心の花が はらはらはら 毀れる涙 花に花になれ

きっとあるのあなたの花 ああ花になれ 花に花になれ

ああ風に抱かれ ああ仏に抱かれ

(一步会 歩き遍路盛り上げ隊)：計盛幸雄

*計盛さんに頼むと、メロディも教えて頂けるかもしれません。



ここからは
会員のフリーな寄稿とか
活動報告、情報等です。



私 の 椿



会員 小野信明（徳島市）

私の家の西300mに気延山（山頂からは徳島市街、吉野川平野が一望でき源義経が讃岐攻めの時、敵情視察の為、登頂したと云われる標高203mの山）山には松の木が80% 杉、桧等で緑に覆われたのどかで自然と木が延びる山でした。ところが30数年前松くい虫の為、松が全て枯れ山全体が茶色の山となりました。山を緑にしたい！ どのようにしたら 早く美しく回復できるか 専門家にも相談いたしました。結論は出ず、職場の先輩（植物、樹木に関係ない人）に話したところ、曰く＝緑だけでなく花も楽しみに出来る山にしたらどうか！それには椿木が最適だ！椿は常緑樹で花も咲く。その昔この山は椿木の自然林があった、その名残が矢倉姫神社の社有林には樹齢数百年の巨木が多数現存している。土質は椿に合うことは間違いない、自分もやる、一緒にやろう＝ということで椿木の苗木作りを始めました。丁度その頃 徳島市が気延山南東斜面に阿波史跡公園の建設を始めました。公園にも椿木を植樹しようということになりました。公園に植えるには、樹種は園芸品種を主体にする必要があります。国内はもとより、オーストラリア、中国〔唐椿〕からも苗を取り寄せ、育成し徳島県椿協会、地元、阿波史跡公園愛護会の皆様方のご協力のもとに、公園内の通路を中心に通路斜面地に植樹を致しました。その後公園から気延山山頂を経由して、旧県立農業大学迄の登山道の両横に小さな苗を約7000本の植樹をしました。

松枯れで茶色の山を緑にしようと行動を始めましたが、15年の時が過ぎ、その間公園内と登山道だけに椿を植え山には一本の椿木も植樹をしなかったが、山は緑に覆われ自然の回復力の強さと速さに驚いています。7年前から椿の実が相当量収穫できるようになり、実を拾い集め搾油してツバキ油を作り、地域の人で公園の除草作業に参加された人に少量ですが配布しています。

緑で環境を良くし、花で心を癒し、実で美貌と健康守るという、一つのサイクルが完結致しました。椿を植えよう 共にしようと誘って頂いた先輩に取り組みサイクルの完結の報告と御礼を申し上げます。



何種類の植物があるか？

会員 小松美智子さん（徳島市）に教えていただきました。本当にビックリです。みなさまは、どこまでお分かりですか。現場に来て観察してみても、いかがでしょうか。

【花木、樹木】 36種類

アジサイ、アキニレ、イチジク、イロハモミジ、イチョウ、ウメ、オウバイ、オタフクナンテン、オリーブ、グミ、コノテガシワ、ゴールドクレスト、桜(6種)、サザンカ、サルスベリ、シマトネリコ

スモークツリー、ダイダイ、ツバキ、ナツハギ、ナンテン、パンドリア、フヨウ、マサキ、マツリカ、マンリョウ、ムクゲ、ヤマブキ、ユキヤナギ、ランタナ、ローズマリー、

【宿根草、球根類】 53種類

アイビー、アガパンサス、アジュガ、アスパラガス、アマトコロ、アマリリス、アヤメ、アルストロメリア、アロエ、イキシア、オキザリス、オリヅルラン、ガザニア、カネノナルキ、カラー、カンナ、キク、ギボウシ、グラジオラス、クリスマスローズ、シクラメン、シャガ、ジャーマンアイリス、ジャノヒゲ、シラン、シロタエギク、スノーフレック、スイセン、ゼラニウム、タマシダ、ツルニチニチソウ、ツワブキ、テンモントウ、ナデシコ、ニオイスマレ、ニオイゼラニウム、ハナニラ、ハマギク、ハマユウ、ハラン、バラ、パンパスグラス、ヒオウギ、フリーシア、ベゴニア、マーガレット、ミヤコギク、ミント、ムスカリ、ユリオプス、デージー、ラベンダー、ブルーサルビア、ブルースター

【一年草】 21種類

インパチェンス、イソトマ、カスミソウ、キンギョソウ、キンセンカ、コリウス、サクラソウ、サルビア、ジニア、ナデシコ、ニチニチソウ、ノースポール、パンジー、ハボタン、ビオラ、プリムラ、ペチュニア、ポピー、マリーゴールド、メランポジウム

（一年草は、毎年種類が変わります）

【その他】 6種類

セージ、カモミール、ニンニク、ニラ、ミョウガ、アイ

なんとその数はご覧のとおり、**110種以上**の多様な植物があります。



会員の取り組みが新聞に掲載されました。

会員“小林徳子さん”（藍住町）が、東北の被災地支援を続けています。

4月7日
2015年

島 新 月 刊



農業者の被災者に、県アグリレディーズ交流会が発送した春ニンジン＝藍住町徳命

東北被災地にニンジン

農業従事者 女性団体 藍住産 170キロ贈る

農業に従事する県内女性グループ「県アグリレディーズ交流会」の東北3県に、藍住町などが、東日本大震災被災地の岩手、宮城、福島に、春ニンジンを送る。仮設住宅暮らしの東北3県に、藍住町などで制約の多い被災者を元気づけようと、震災直後の2011年から無償提供しており、今年で5年目。発送したのは収穫したばかりの旬の春ニンジンのうち、規格外品170キロ。現地の協力者を通して仮設住宅や幼稚園で、被災者に配ってらる。3月13日に今季第1便を送ったところ、アグリ交流会の小林徳子元会長「同町徳命」宅には早速、被災者から「とてもおいしくて甘い」「今年も本当にありがたいです」といった礼状が続々と届いている。

交流会は12年から、一般向けにインターネットでの安値販売もしており、発送作業は6月上旬まで続く。被災者からの要望があれば、1人1回に限り無償で追加発送する。これまで被災地に送ったニンジンは、今年分を含めて約1.1トンに上る。交流会の元内美智子さん(60)は「町東中富」は「被災者の健康のために、その根の活動を続けていく。どこまでも活動

会員の新聞投書を紹介します。

福谷洋介君（北島町）が徳島新聞「読者の手紙」に投書しました。

15年(平成27年)2月17日 火曜日

読者の手紙

大人も道徳学ぶ必要がある

(北島町、福谷洋介・32歳・弁護士)

今、明日を担う子どもたち これらの事件が新聞に載ちによる殺傷事件が各地で ったり、テレビのニュース相次いでいます。動機も相 で流れたりするたびに、不手との関係の中で殺意を抱 安になる人もいると思いまいたからといったものでな す。有識者の中には子ども くて「誰でもいいから、人 たちの道徳の欠如だと指摘を殺してみたかったから」 する人もいます。そうしたとあいまいなものもありま 中で、道徳の教科化が進め られています。

事件の原因について、子どもたちの道徳の欠如を指摘するだけでいいのでしょうか。政治家を含めて見本となる存在であるはずの大人による不道徳が、社会にはまん延しているからです。人が生きていくために大切なことは、世代などの

違いに関係なく、全ての人 けにするのなら子どもたちに共通しているのではない だけでなく、大人も共に学 か、と思います。 んでいく必要があるのでは もし原因を道徳の欠如だ ないでしょうか。

チャンネル①

新1年生の夢

友達100人1本人

錦織・高梨1保護者

(徳島・博昭)



ウミガメよ、今年も沢山やって来い！

会員 米川比呂士 （阿南市）

毎年6月頃 阿南市蒲生田海岸の清掃活動に参加しております。今年は早く5月に行なわれました。天気は快晴で少し暑いくらいで私には、心地よく感じられました。一步会の参加者は、新開理事長、富田副理事長、小松さん夫妻でした。他団体は阿南ボランティア連絡協議会、地元中学校高校生等で70人以上はいたと思います。ウミガメの海岸の清掃ということでしたが漂流の木とかがほとんどでしたし、私は一步会で国定公園のパトロールで燈台の近くが多くあるということが分かっておりましたので毎年その清掃をしていました。 地元の人とかも手伝って頂いて2tトラック一杯分のペットボトル、発砲スチロール、他漂流ゴミが集まりました。ただ漂流の材木は量が多く集めることができませんでした。 蒲生田は美しい国定公園です。そして県の有数の観光のルートになっているとお聞きしました。なぜ海を汚すゴミが捨てられるのか日本国民一人一人が自然環境を大切にすることをお聞きしました。学ぶ必要があると思いました。そのためには、一步会が率先して一步一步、地域のために環境を守る運動をしていく必要性を感じました。



9時に作業を開始してあっという間に11時過ぎになりました。楽しくできたので疲れませんでした。ゴミが全て回収できず名残惜しかったです。また来年参加しようと心に決めました。ウミガメの海岸もすごくきれいでこれから毎年産卵のための上陸回数が多くなっていくことを楽しみに期待しています。毎回ゴミの清掃作業に加わって思うことがあります。ゴミをすてないということは、本当に自然を大切にすることと等しく自分の身の周りを愛するということと繋がっているのではないかと思います。

【編集を終えて】



● 昨年は徳島大学出身で元日亜化学の中村修二さんの青色LED製品化の成功に対して2014年度のノーベル物理学賞が受賞されましたが、徳島県人として大いに喜び、その影響に強い期待をしています。また、徳島県にも高子高齢化の波は押し寄せ、地方創生の先頭に立とうと地域活性化への取り組みが叫ばれております。東京での一極集中を防止し、大阪での2重行政システムを解消しようと橋本徹市長が政治生命をかけての大阪都構想を打ち出しました。住民投票が実施されましたが、惜しくも1万数標差で反対され、大阪都構想は実現はできませんでした。その他安保問題等今年の政治は大変な混乱が予想されます。

● 一步会は昨年、従来事業の他に空海開創1200年記念もあり、四国遍路の啓発事業に取り組み、10月には13番大日寺から17番井戸寺へ、12月には1番霊山寺から5番地藏寺へ、そして今年の3月には太龍寺への遍路道ウォーキングを実施、地元の人や外国人たちと一緒に快い汗をかきました。それらの背景から「遍路文化とお接待」と云うタイトルで一步会だより第17号を編集することになりました。幸い多くの会員や会員以外5名の方の特別寄稿も得られてようやく完成、皆さんに見て頂くことになりました。見事な内田さん作成の表紙を含めて、寄稿者のみなさまのご協力に厚くお礼を申し上げます。ご協力有難うございました。次回も宜しく願いいたします。

(富田記)



遍路道の整備活動

太龍寺の下り遍路道



平成26年7月
参加団体：加茂谷遍路道の会、阿南市文化振興課、歩き遍路の会、阿瀬比町有志、一步会 等50名。



平成26年12月

阿瀬比～大根峠～新野町平等寺

平成27年5月
参加団体：新野町ワイワイクラブ、他諸団体 平等寺、阿南市文化振興課、加茂谷遍路道の会 歩き遍路の会、一步会 等60名。

